永遠のオリヴェイラ
マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集

MANOEL DE OLIVEIRA *PARA SEMPRE*
EXIBIÇÃO COMEMORATIVA
DA OBRA DO CINEASTA
www.jc3.jp/oliveira/

Part2は、2016年夏以降に開催します。166分の大作『フランシスカ』(81)のほか、1990年代後半～2000年代の代表作を上映する予定です。
この特集は、コミュニティシネマセンターが全国各地の映画専門施設(シネマテーク)と共同して行なう「シネマテーク・プロジェクト」として、2016年夏以降、全国に巡回します。
【巡回予定】
川崎市市民ミュージアム［川崎市］／金沢21世紀美術館［金沢市］／神戸アートビレッジセンター［神戸市］／広島市映像文化ライブラリー［広島市］／山口情報芸術センター［山口市］／川崎市アートセンター［川崎市］／高崎映画祭［高崎市］

上映スケジュール

1月23日[土]	15:00	アブラハム渓谷(1993)
	18:40	階段通りの人々(1994)
1月24日[日]	14:50	春の劇(1963)
	16:50	神曲(1991)
	19:25	アニキ・ボボ(1942) レステロの老人(2014)
1月25日[月]	15:30	過去と現在 昔の恋、今の恋(1972) レステロの老人(2014)
	18:30	階段通りの人々(1994)
1月26日[火]	15:00	ノン、あるいは支配の空しい栄光(1990)
	17:10	カニバイシュ(1988)
1月27日[水]	15:00	神曲(1991)
	18:20	過去と現在 昔の恋、今の恋(1972) レステロの老人(2014)
1月28日[木]	15:00	アブラハム渓谷(1993)
	19:00	アニキ・ボボ(1942) レステロの老人(2014)
1月29日[金]	15:30	階段通りの人々(1994)
	18:30	ノン、あるいは支配の空しい栄光(1990)
1月30日[土]	14:50	神曲(1991)
	17:25	カニバイシュ(1988)
	19:20	アニキ・ボボ(1942) レステロの老人(2014)
1月31日[日]	14:50	過去と現在 昔の恋、今の恋(1972)
	17:00	春の劇(1963)
	18:50	ノン、あるいは支配の空しい栄光(1990)
2月1日[月]	16:00	アニキ・ボボ(1942) レステロの老人(2014)
	19:00	カニバイシュ(1988)
2月2日[火]	15:30	春の劇(1963) レステロの老人(2014)
	18:30	過去と現在 昔の恋、今の恋(1972)
2月3日[水]	16:00	ノン、あるいは支配の空しい栄光(1990)
	19:00	カニバイシュ(1988)
2月4日[木]	16:00	春の劇(1963)
	18:00	神曲(1991)
2月5日[金]	15:00	階段通りの人々(1994)
	17:00	アブラハム渓谷(1993)

料金

前売券 1回券＝1300円／3回券＝3300円
前売券は二監賞当日、
劇場窓口にて入場整理番号とお引換えください。

当日券 1回券のみ
一般＝1500円／大学専門学校学生＝1300円
会員・シニア＝1100円／高校生＝800円
中学生以下＝500円

各回入替制・整理番号順入場・自由席
やむを えない事情により作品及び上映時間が
変更される場合がございます。

お問い合わせ

コミュニティシネマセンター
✆050-3535-1573 | http://www.jc3.jp

アクセス

ユーロスペース
150-0044 東京都渋谷区円山町1-5
✆03-3461-0211 | http://www.eurospace.co.jp/

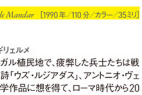
恵比寿駅
East
Building
ユーロスペース
ホテル
ロイヤル
ガーデン
渋谷
パルコ
渋谷駅
東急東横
宮益坂
道玄坂
ハチ公
前
交番
セブン
イレブン
ファミリー
マート
ドン
キホーテ
ビック
カメラ
ヒカリエ
ホテル
エクセル
東急
ハンズ
Bunkamura
文化村
ル・シネマ
ビル
ビル
ビル

永遠のオリヴェイラ　マノエル・ド・オリヴェイラ監督追悼特集
MANOEL DE OLIVEIRA *PARA SEMPRE*
EXIBIÇÃO COMEMORATIVA DA OBRA DO CINEASTA

オリヴェイラは世界最大の映画作家である　蓮實重彦

Fotografia: Enrique de Leon / Cortesia Cinemateca Portuguesa-Museu do Cinema

現役最高齢の映画作家として数多くの作品をつくり続けたマノエル・ド・オリヴェイラ監督が、2015年4月2日に106歳でたくなりました。
日本では、1993年に開催されたポルトガル映画祭で、初めてオリヴェイラ特集が組まれ、同年の東京国際映画祭で『アブラハム渓谷』が最優秀芸術貢献賞を受賞、オリヴェイラ監督という偉大な映画作家の存在を知らしめました。
これ以後、ほとんどの長篇が劇場公開され、オリヴェイラ監督は日本の映画ファンが最も敬愛する映画作家となりました。
本特集では、80年をこえる映画人生でマノエル・ド・オリヴェイラ監督が遺してくれた珠玉の映画をPart1、Part2に分けて上映します。



ノン、あるいは支配の空しい栄光 *Non, ou a Vã Glória de Mandar*　【1990年／110分／カラー／35ミリ】

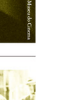
監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　エルソ・ロケ
出演　ルイス・ミゲル・シントラ、ディオゴ・ドーリア、ミゲル・ギリェルメ

1974年、独立戦争が長期化していたアフリカのポルトガル植民地で、疲弊した兵士たちは戦争の意味と自国の歴史を振り返る。カモインイスの叙事詩『ウズ・ルジアダス』、アントニオ・ヴェイラ神父、フェルナンド・ペソア、ジョゼ・レジオネどの作品に想を得て、ローマ時代から20世紀まで、ポルトガル民族の2000年にわたる歴史の中の四つの敗北の物語を描く、オリヴェイラによる壮大な歴史・戦争映画。

神曲 *A Divina Comédia*　【1991年／141分／カラー／35ミリ】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　イワン・コゼルカ
出演　マリア・ド・メデイロス、ミゲル・ギリェルメ、ルイス・ミゲル・シントラ

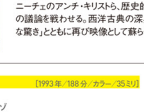
「精神を病める人々」の表札が掲げられた邸宅で、アダムとイブ、キリスト、ラスコリーニコフ、ニーチェのアンチ・キリストら、歴史的文学作品の登場人物たちが、信仰と理性と愛についての議論を戦わせる。西洋古典の深奥に分け入りながらも「まったく未知なものとして、絶対的な驚き」とともに再び映像として蘇らせるオリヴェイラ芸術の真骨頂。



アニキ・ボボ *Aniki Bóbó*　【1942年／71分／モノクロ／35ミリ】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　アントニオ・メンデス
出演　テシメント・フェルナンデス、フェルナンダ・マトス、オラシオ・シルヴァ

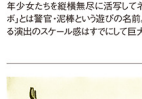
オリヴェイラの長篇デビュー作。陽光降り注ぐポルトの街を舞台に、躍動するアナーキーな少年少女たちを総横無尽に活写してネオレアリズモの先駆的作品と見なされる。「アニキ・ボボ」とは警官・泥棒という遊びの名前。 幼い恋の冒険を「罪悪」と「友愛」の寓意へ変貌させる演出のスケール感はすでにして巨大。



アブラハム渓谷 *Vale Abraão*　【1993年／188分／カラー／35ミリ】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
原作　アグスティナ・ベッサ＝ルイス　撮影　マリオ・パローソ
出演　レオノール・シルヴェイラ、セシル・サンス・ド・アルバ、ルイス・ミゲル・シントラ

フロベール「ボヴァリー夫人」をもとにポルトガル文学の巨匠アグスティナ・ベッサ＝ルイスが原作を執筆。聚珍された言葉の響きとオリヴェイラの完璧な映像が火花を散らす"文芸映画"の最高峰。監督が追求し続ける女性美が、主人公ユマを演じるレオノール・シルヴェイラと洗濯女を演じるイザベル・ルルの両極に具現する。
[フィルム提供：東京国立近代美術館フィルムセンター]



春の劇 *Acto de Primavera*　【1963年／91分／カラー／35ミリ】

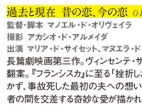
監督・脚本・撮影　マノエル・ド・オリヴェイラ
出演　ニコラウ・ヌネス・ダ・シルヴァ、エルメリンダ・ビレシュ、マリア・マダレーナ

16世紀に書かれたテキストに基づいて山村クラリュで上演されるキリスト受難劇の記録。自ら「作品歪のターニングポイント」と述べる本作でオリヴェイラが発見したのは、「上演の映画」という極めて豊かな鉱脈だった。一見して不自然な「虚構」のドキュメントだけが喚起する謎と緊張。前人未踏の「映画を超えた映画」の始まり。

階段通りの人々 *A Caixa*　【1994年／96分／カラー／35ミリ】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　マリオ・パローソ
出演　ルイス・ミゲル・シントラ、ペアトリス・パタルダ、フィリペ・コショフェル

リスボンの街路を舞台にした群像劇。「すべての私の映画同様、『階段通りの人々』は人生から拾きたった特別な何かだ。それは捨てて同様にいる、ほとんど忘れられた人々の目を通した真の人間性のポートレイトだ。これは、1920年代の映画、初期映画への回帰を示す映画なのだ」。
[フィルム提供：東京国立近代美術館フィルムセンター]



過去と現在　昔の恋、今の恋 *O Passado e o Presente*　【1972年／115分／カラー／35ミリ】

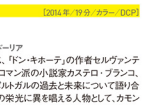
監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　アカシオ・ド・アルメイダ
出演　マリア・ド・サイセット、マヌエラ・ド・フレイタス、ペドロ・ピニェイロ

長篇劇映画第三作。ヴィンセンテ・サンチェスの戯曲「過去と現在」を、監督が自ら映画用に翻案。『フランシスカ』に至る「捨てた愛の四部作」の第一部にあたる。現在の夫に心を開かず、事故死した最初の夫への想いを募らせる妻ヴァンダを中心に、過去と現在、死者と生者の間を交差する奇妙な愛が描かれる。

レステロの老人 *O Velho do Restelo*　【2014年／79分／カラー／DCP】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　レナート・ベルタ
出演　ルイス・ミゲル・シントラ、リカルド・トレパ、ディオゴ・ドーリア

ポルトガルの大航海時代を詠った国民詩人カモインイス、「ドン・キホーテ」の作者セルヴァンテス、『破滅の愛』の原作者である19世紀ポルトガル・ロマン派の小説家カステロ・ブランコ、20世紀初頭の詩人パスコアイス。4人の文学者がポルトガルの過去と未来について語り合う。タイトルである"レステロの老人"は、大航海時代の栄光に満を唱える人物として、カモインイスの詩『ウズ・ルジアダス』の中に登場する。



カニバイシュ *Os Canibais*　【1988年／91分／カラー／35ミリ】

監督・脚本　マノエル・ド・オリヴェイラ
撮影　マリオ・パローソ
出演　ルイス・ミゲル・シントラ、レオノール・シルヴェイラ、ディオゴ・ドーリア

『過去と現在』から音楽を担当してきたジョアン・パエスとともに作られたオペラ・ブッファ映画。厳かに進行する貴族たちの晩餐会は、やがて、タイトルが予告する驚愕の食人場面へ。人間と動物、人間と機械、見せかけと本質…ヴァイオリンの調べに乗ってあらゆる境界が軽々と侵される。

マノエル・ド・オリヴェイラ　Manoel de Oliveira

1908年12月11日にポルトガル北部の港町ポルトに生まれる。1931年に初監督作『ドウロ河』を撮り、42年に初の劇場用長篇映画『アニキ・ボボ』を発表。家業を続けながら映画制作を続け、63年に長篇第2作『春の劇』を発表するが、「ポルトガルには機関が存在する」という発言によって投獄される。10年を経て1972年3本目の長篇『過去と現在　昔の恋、今の恋』を発表。1974年独裁政権が終わり、オリヴェイラは『ペルニニテまたは聖母』（75）、『破滅の愛』（78）、『フランシスカ』（81）と「捨てた愛の四部作」を構成する作品を立て続けに発表。また、敏腕プロデューサーのパウロ・ブランコと組み、自分の望む表現できる環境を得る。以後、上映時間6時間50分の大作『襞子の戒』（85）、『神曲』（91）、『アブラハム渓谷』（93）、『世界の始まりへの旅』（97）、『クレーヴの貴方』（99）などの輝かしい傑作をつくり続け、2000年代に入り、90歳をこえてもなお、ミシェル・ピコリ（『家路』（01））、ジョン・マルコヴィッチ（『永遠の語らい』（03））、カトリーヌ・ドヌーヴ（『永遠の語らい』）、ビュル・オジエ（『夜顔』（06））、ジャンヌ・モロー（『家族の灯り』（12））といった世界的名優を迎えて、作品を生み出し続けた。2014年のヴェネチア国際映画祭で短篇「レステロの老人」上映。2015年4月2日没。享年106歳。